

佐々木弘綱解
竹取物語俚言解

乾



井上文雄 閱
佐々木弘綱 著

全貳冊

竹取物語脛言解

東京書肆 文苑堂藏版



五ノ字の字を代へて来江野女ハ
少一とあるは字の字ナリ
以て海へ出らぬ書と著り
其名神風能停勢ナ國ナ
少名女と云ふ事平の事ナリ
何れに傳へて井と大人能心



折るるたる枝をいよこの
ちあらはるるまは此書を桜
木より自らやははるるちの枝

あはれを長月
竹川百枝藏
竹川百枝書

竹取物語俚言解凡例

一此物語を源氏物語繪合の巻よりの物語のりてこそあ
れれやむる竹取の翁よりこれ後蔭をあそせて何
そあそむるて毛よりあそむるいふてあそむるま物語不
るあそむるむるけること決りの證は源氏物語のやうな例と
ころてあそむるこれのまよりひとていふ源氏物語のまむ
まのいふやまむる解せしむるやうなまむるまむる文の意を
心ほむとていふまむるもまむるい思の介も心えぬ初
うむとていふまむるやれむるまむるもあそむるまむるゆ
ありまむる此文初めつていふまむるまむる物語よりいふまむる

まゝの詞をのりて省きしるゝまのちりしるゝは写本のあらは脱
しること誤れる所のあれはなるべし一なる紙あつぬことと
飛弾の國人田中大秀ぬ一板本をのりて校合しりし
をくこれの解をぬれしるゝいしるゝこと一なる考むる
をけうひ学のあらは今世の俗言ゆてしるゝこと一なる
と坂倉有周のころよりいしるゝことしるゝことしるゝこと
しるゝことしるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと
てかゝいゆしるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと

一書の名作する時代作者據處をいハ契沖法師の河社小
山儀ぬの抄田中氏の解とも見えしるゝことしるゝこと

一本文を解きしるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと
も考へ人も見せてしるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと
しるゝことしるゝことしるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと
て校合しるゝことしるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと
あり又普通の板本抄のうらみおされりと思ふもひしるゝこと
しるゝことしるゝことしるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと
その心しるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと

一解よりしるゝことしるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと
りしるゝことしるゝことしるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと
うの補ひからの削りしるゝことしるゝことしるゝことしるゝこと

鼠ネズミの皮ヒをカらりサレとク大伴の大納言オホノボロノハノ首カビの
 びヒ玉タマありシ玉タマありシ石上イソノカミの中納言ナカノボロノ
 言コトハツ驚オドロクきコトもシ子コ安ヤス貝ガイのノ心ココロをシなク
甚アリニクイ品物バツカリギヤトオモハレル
 へシ小コ箱コトのノ物モノはシ此コノ國クニにシあるモノはシ
モナカヤウニテキニクイ
 やメ姫ヒメ何ナニかシテキニクカラシウク
ウト云テカウニ申マシテヨサル 申上ル トホリニ オ
皇子オキ、ナラシテ イツシ 手ニシカニ 難題ナニトモシキヲシモ
ハルナラヌトサツハリナゼ イフテハ下サラヌゾト
 ありシまシきシやハのノありシぬシ心ココロをシなクホツトシテ 五人五人氏ノオ

へシりシぬシ猶ナカニのノ女メ人ヒトニシ世ヨはシあるモノはシまシらシちシガガニシッッテ
是ヨリ佛ノ御石ノ鉢ノイフ云
 ハ天竺テンシクよりシあるモノのノ心ココロをシなク思オモひシあシくシて
 石作イシノシのノ心ココロをシなクあシくシて天竺テンシクよりシあるモノのノ心ココロをシなク
下巧ニアヒダ エキタトテモバウシテ 取テキラレテ
 ありシとシおシもシひシてシかシくシやシ姫ヒメのノ心ココロをシなクあシくシて天竺テンシクよりシあるモノのノ心ココロをシなク
三年ホトタツテ
 國クニとシあシらシのノ郡ノよシあるモノのノ山ヤマ寺ジにシ不フ動ドウのノ前マエなるモノのノ鉢ハチのノひシ
煉ガツイテフルビタルヲ
 黒クロよりシあるモノのノ心ココロをシなクあシくシて錦ニ袋フクロのノひシをシなクあシくシて
 枝エダよりシあるモノのノ心ココロをシなクあシくシて姫ヒメの家イヘのノ心ココロをシなクあシくシて

竹 上 七

姫 フレキニオモフテ ありて見るも 鉢の中は文あり びろ香と見れば

海山の 心越つ ころと の あり 未だ あり

あり 光 あり 光 あり 光 あり

あり

おと 光 あり 光 あり 光 あり

と 光 あり 光 あり 光 あり

あり

あり 光 あり 光 あり 光 あり

あり 光 あり 光 あり 光 あり

あり 光 あり 光 あり 光 あり

弘綱云十六を
 城のそ城をび
 うがよ改めく
 をこよ改めけ
 をてよ改めて
 十六莊が守よ
 更と死て欺
 文雄察二此所
 人のふくう
 うふ所之是ハ
 活字板より
 誤りて大の轉

葉へオキダシサレタト
 人よハハ見えぬひる三日よりありて
 モドリナサレタマヘニロニイサノコラス 仰付ケオキナサレタニヨツテ
 うん里路ひ想ひて事なまあせりりたれハ時り
 ノエ匠 内藤呂 補のれは中へは
 のうさあけさるうらあは六人そあしりて
 スク 未ル 家城つりてかまへさる人よ
 めてたさるをわれあひさるもあはあよこり
 ひろあせあひるるのまり十六そ城かよよくとをあげ
 て玉の枝をろりまふや姫のまふやうよ
 スコシラヘダシタ キツクヨウ エ夫シテ ナガハ
 けつりりてはいさうさうりて難波よ
 にあつてぬ船あはりてかつりきよなりとのま
 殿 オシラセ

倒したるもて
 皇子もあせ
 ちひつる服同
 ひて十六そ城
 かさうしと
 あけてさる人
 一さるさるい
 つるさるいハ
 御心シリノ人
 がケ之うとよ
 くと改めけて
 ハ上ノ方ヘク
 見テ之を
 改めバその
 まくみてよく
 きこえり

やりていさうさうりてあはりて
 人多くまわりるをあはるるをながひりり
 物あはひるあはりてまぬる
 優曇華 花モツテオ 花サレタ イヒサワクワイ
 うむさるあのをあはりてあはりて
 城のや姫まうて我ハはさるまけぬ人
 ねるおもひるあかかきるあはりてあはりて
 こねるおもひるあかかきるあはりてあはりて
 りとらんバあはりてあはりてあはりて
 彼玉の枝あはりてあはりてあはりて
 上 九

王卿と唐王へ
守も唐王へ
トマシコト
文もあり

アリニクイ デゴガニ
 つらきあきなるひたり、シナガラ 天竺トシより来たるに
唐ヨリ天竺へ ツタナラハハ ヘタツ子
 ひたひた物なるを 唐守主 つひひきくさくさく子をハハくし奉ら
 むとらんりがめあらこし船きくり、カヘリ 小野のふりりやう
 て末さあうけあるとひある 右大臣 又アルクノハヤイ馬
 をりらてそしらかむらんさせさふ時馬けのりてつら
紫カラ タツタ カヘリ
 しつらしつ七日よのありあうてきまり又をさるよい
火氣 の襄からうし人を出し カヒダシテ 今世よ
又言 昔乃世も此皮ハ テゴガニ やまぐたさるのなりなり昔

この形
あきあき
あきあき
あきあき
あきあき

タツトイ 高僧 唐土へ持テ ツテ キマシタガ 三僧が坐り
 のこの天竺のひし 私ニヒミ 此國よもさうりて ツテ 侍ひる 西 の
 山寺ありとさう 寺ヨリ おうひて 公 おや ヘ オ子ガヒ申テ ヤウ
威ラ以テ してこのひらりて 金ガ あきひの イ 心ま 國 司使
者 うひさあうし タニヨツテ け 金 五十兩 マシタ 今日
 うら イタミク 船のらんらむ 賜ハリ送リ
下サレ られ ク 伝 ニ 送 シ 物 ニ 奉 ル ハ 賈 装の シ 志 下サレ
イウラアル ウカヒト ニ モ 事 ニ 城 ニ 尺 ニ 寸 ハ 木 ノ 札 ニ 今 コ の ハ 志 ニ 送 リ
脱文 ウカヒト ノ ヘ 事 ヲ 記 ス ル コト ト 志 ニ 送 リ
 そのあわれ ト云テ 唐
 ハウハ ト 志 ニ 送 リ 唐

タニヨツテ
 よしのがちがやひちあひまをいさむひくねハ、くねをさ
ナガレズ
利氣 い
フガヒナイ
ワカワイ 大伴の
ヨビ 龍の首の玉
 龍の首の玉ありと何人をもあしめ、あつて此
ガアルダヤガ
ユルサウ
エルサウ
ケツウ オツレオホイ
トモムルニテモ
フ、ロヤスウ
リニエニ
ドクシテ トリエマセウツクチニ申アフタ
イ 納言の君のつひとつひの命をまをももね

文雄案此四字
 抄本、なまき
 もち

身ノ主
 の君の御子とハかなくむくろを思ふ人々此國よな
イ 天然もろくは物もあはれこの國は海山ありあり
山ヨリ 海ヨリ
イ 兼物もつぎをのこもやうさうハハのハせむの
ニクイ
臆病ナル弊ヲ
ソキタキ主
イヒツケ
ドクシテ
カレウ
オホセラレテ
タ、セ
ダケ
ダシ
 此らの物と錢とある限をうけて、そのつひを

竹
 上
 十九

此人くも 留るまでい 精進 我ハを む 此玉と
りえ ズシテハ 家王の ネノチヲタ ところ オホセラレ 此 メイ ありけり レ おの ク 何 ラ う
け 退 ありりて 出 ありり シ タ タ 龍の首 タ 玉 タ ありえ ハ 此 ハ かり
クル+ しく ド ち ツ ち キ も ハ あ ハ の ヒ び キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ
い ユ さん カ とい カ カ ヤ ウ ナ 好 色 色 ト 色 ト 色 ト 色 ト 色 ト 色 ト 色
ク タ サ レ タ タ 物 ハ あ メ ン ク 配 分 シ テ 自 身 何 ラ 也
カ ク レ テ リ リ、 あり ハ ち の う エ キ タ ウ オ モ ウ 親、 お カ 也、 君
と カ ウ ツ マ ラ マ カ ト ラ チ ノ ア ク ト デ モ
物 イ ニ ヨ ツ テ 大 油 云 城 其 ノ 也 ア ひ シ たり ガ ち ヤ 姫 モ 名 モ 止 マ 事 々 例 子

のやう デ 見 グ ころ ル とい シ とい ハ 屋 イ 城 エ 作り ナ ぬ
ひ サ レ テ 漆 サ を ぬ り、 時 繪 を し づ ク 入 レ 漆 ノ 上 ニ ハ
糸 ヲ ち ギ ち セ 色 ク ヲ ア ち セ ぐ、 ち ク の キ づ ラ へ イ ウ ニ
い ハ レ ヌ ケ ツ カ ウ ナ ヤ ニ シ キ ヘ 以 下 ノ 内 ノ 構 ヲ 云 間 毎 毎
り の や も ハ 皆 お び き ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ
も む ま ウ け シ て 獨 あ ち シ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ
る ひ 糸 待 ま チ 年 々 ち ゆ る ま ち 喜 り セ 心 ハ ち キ 手 テ
い キ ヲ ウ ち の ひ シ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ キ ぎ
奇 ヒ て 難 波 の 邊 ノ 也 ハ 大 伴 の
竹 上 廿

神あふぬハ
風はほそひ
くさるつら
うまうんと
うまうんと
ま〜ハ〜

文雄云の味の
二字抄本は
〜ん〜ち〜

あそく船よのりてハ揖取のあうほ子をうら高き山とも
ムナサニ ナゼニカウハリアアヒノナイ
 のめあそくくくく青 吐
 つきまおあかろくくくくくくくコトシラニ
 さをくくくくくくくくくくくく雷 アデ
 へい〜〜〜落〜〜〜やうちあふハ龍を〜〜〜
ガ 頭 上
 めあひさあ〜〜〜かくあめくくくくナサレテッサナサレバ カヤウデゴザル 暴 風
 るり〜〜や神よりのり〜〜シラガル
 赤神〜〜〜あせをちなく心をもなく龍〜〜〜
マシタ ヨレカラ
 ひ〜〜〜今よりほも毛の末一筋をたよ〜〜〜
アノバセ
オトナヘナサル、
ユエ
ジリ〜
一ダ
ノデコサル
タツテ
チヤワ
ケヤ
シ
セ
ウチオ
クヤ
船 霊
中ノイ
シ
ト

祝詞 声ヲアケテラ
 りま〜〜あふあ〜〜やあ〜〜
アカルウナツテ
 一あ〜〜〜風ハ程も〜〜〜
デアノ タワイ
 志〜〜〜に〜〜〜
ノハウヘン
 三才の風ハあ〜〜
ノハチ
 わ〜〜〜も大納言ハ是を〜〜
誠
 き〜〜〜く〜〜〜
イ
 り大納言南波氏もまた吹〜〜
タメ息衝テ
 もひ〜〜〜

